
臨時収入で心霊ゾーン（お題小説文字数制限なしバージョン）

りったん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

臨時収入で心霊ゾーン（お題小説文字数制限なしバージョン）

【Nコード】

N6109Z

【作者名】

りったん

【あらすじ】

いつものお題小説です。意味不明なのでご注意ください。

（前書き）

沢木先生のドSなお題に基づくお話です。

臨時収入と心霊ゾーンを使わせていただきました。

文字数にご注目ください。これも偶然です（笑）。

これっぽっちも金運がないと思い込んでいた我が人生。

ところがところが、とーころが！

つい先日、思い切って買ってみた年末ジャンボ宝くじが当たった。

まあ、当たったと言っても、一等の組違い賞だけど。

そんなところでも、微妙に金運のなさを発揮してしまった。

それでも、この年の瀬に来て十万円はありがたい臨時収入だ。

これで壊れた洗濯機とファンヒーターを買える。

ついでにおせち料理も奮発しようか。

そんな事を思いながら歩いていたせいで、顔がニヤけていたのだろつ。

不審な男につけられているのに気づかなかった。

大通りを外れて、いよいよ我が家までもう少しという路地に入った時だった。

「きゃっ！」

私はつけて来ていた男に思い切り突き飛ばされ、倒れ込んだ時に財布の入ったショルダーバッグを奪い取られた。

そのはずみで私は道路脇の側溝に頭から落ち、頭を強く打ってしまった。

はっと気がつくと、そこは一面の花畑。

噂に聞いていた天国だろうか？

私は追いはぎに襲われて、命を落としてしまったのか？

何て切ない人生だろう。

悲し過ぎて涙も出ない。

「神村さん、神村さん！」

その時、耳元で大声が聞こえた。

「え？」

目を開けると、そこは銀行の応接室。

私はソファに横になっていた。

心配そうに支店長が私の顔を覗き込んでいる。

「は？」

頭がボンヤリしていて、理解するのに時間がかかった。

ふとテーブルを見ると、一万円札の束が山積みになっている。

「良かった、気がつかれましたね」

支店長はホッとした顔でソファに座った。

「時々いらっしゃるんですよ、札束の山を見ると、気を失う方が」

支店長は担当の行員と苦笑いして言った。

「あはは、すみません、お恥ずかしい」

私は慌てて起き上がり、頭を掻いた。

しかも私はもっと恥ずかしいのだ。

何しろ、宝くじの取材に来て、一億円の札束を見せてもらっただけなのだから。

もうしばらくこの銀行には来られない……。

（後書き）

意味不明でもいいじゃない、人間だもん（ムフ）。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6109z/>

臨時収入で心霊ゾーン（お題小説文字数制限なしバージョン）

2011年12月20日15時49分発行